

科目名	人間発達学			ナンバリング	ABA221	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	北山 淳	担当教員					

授業の概要	リハビリテーションの対象は、乳幼児から高齢者まで全年齢層である。その対象者の身体面・心理面・社会面の発達過程を理解し、各時期における特徴を理解する。特に運動・認知発達の著しい、乳幼児期ではその過程を詳細に学び、さらに障害が発生した場合において、生活環境の支援法に対しても学ぶ。		
到達目標	1. 発達に関わる様々な促進要因・阻害要因を理解する。 2. 発達に関する諸理論を理解する。 3. 発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。 4. 発達の途上で現れる困難を理解し、対処法について考えられる。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	発達の定義だけではなく大局的な考え方も重要であることを理解し、現象を説明できるようにする。講義で示されるまとめのスライドや、教科書の図を自分の言葉で説明できるようになることを一つの目標として学習に取り組む。		
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部作業療法学科のディプロマポリシー】		
	○	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
		2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
		3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。
		4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 系統的な人間発達について説明できる。 2. 系統的な運動発達について説明できる。	1. 発達に関わる様々な促進要因・阻害要因を理解する。 2. 発達に関する諸理論を理解する。 3. 発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●						80%
小テスト・授業内レポート	●						10%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		●	●	●			10%

課題、評価のフィードバック	manabaによるフィードバックを行う
---------------	---------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	発達の理論と発達段階の見方	発達の理論と発達段階の見方。主な発達理論を紹介し、比較検討する	
	第2回	発達の進化論的見方	発達の進化論的見方。進化心理学の立場から、人間の成長を把握する	
	第3回	脳の発達と行動の発達	脳の発達と行動の発達。脳から、行動の発達を理解し、発達の生理学的要因を理解する。	
	第4回	意識の発達	意識の発達。意識がどのように変化するかを理解し、行動発達との関連を考察する	
	第5回	姿勢と運動の発達	姿勢と運動の発達。乳幼児期の運動発達を理解し、重要な発達指標を把握する	
	第6回	情緒発達と人間関係の発達	情緒発達と人間関係の発達。乳幼児期の情緒がどのような筋道で発達するかを理解し、人間関係の発達との関連性を学ぶ。	
	第7回	知覚・認知の発達	知覚・認知の発達。乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムについて学ぶ	
	第8回	愛着の発達	人格形成における愛着の重要性を理解し、愛着が育つための様々な要因について学ぶ	
	第9回	言語の発達	乳幼児期における言語の発達について理解し、言語発達のメカニズムを学ぶ	
	第10回	児童期の発達	児童期を取り巻く状況を理解しながら、認知、情緒、人間関係の発達を理解する	
	第11回	思春期の発達	第二性徴が現れ内面的な世界が発達する思春期の不安定さを学ぶ	
	第12回	青年期の発達	社会に出ようとする自己の在り方を探求する青年期の複雑さを学ぶ	
	第13回	中年期の発達	人生の曲がり角に立つ中年期の悩みや、責任を背負う充実感を学ぶ	
	第14回	老年期の心理	心身の衰えを受け入れ、それまでの人生の意味づけを考える老年期の心理を学ぶ	
	第15回	発達障害を考える	乳幼児期を中心に、様々な発達障害とそれに対する対策を考える	
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。試験範囲は全範囲とする。試験実施日は、掲示板およびポータルサイトに掲示されるので必ず確認すること。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする確認小テストを実施する場合もある。		
授業外学習の指示		配布資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書で確認するか教員に質問すること。(予習90分、復習90分) (授業外学習時間： 毎週 分)		

教科書	医歯薬出版社 イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 監修 4,536円 ISBN978-4-263-21945-4
参考書	
参考URLなど	
その他	